

10 月下旬の台風に対する農作物等の技術対策

令和 8 年 10 月 22 日

山口県農林水産部

【全般】

- 1 人命を第一とし、ほ場の見回り等については安全が確認された後に実施する。
- 2 増水した河川、用水路などに近づかない。

【Ⅰ 共通】

＜事前対策＞

- 1 用水の確保（防除、除塩用）
- 2 用排水路の点検整備、排水ポンプ等の機具の確保及び点検
- 3 支柱等の資材確保と点検、補強
- 4 防除用機材の点検、薬剤等の準備
- 5 停電に備え、発電機等機具の確保、準備

＜事後対策＞

- 1 用排水路の点検、排水ポンプ・防除用機材等の機具の点検
- 2 機械（特にエンジン部分）がかん水した場合は、排水後に十分に乾燥させるとともに、エンジンを始動させる前に、専門家に点検を依頼する。

【Ⅱ 麦・大豆】

＜事前対策＞

- 1 迅速な排水ができるよう、排水路の点検、清掃を行う。
- 2 畝立て溝の確実な連結や排水溝への連結を行い、ほ場外排水の円滑化を図る。

＜事後対策＞

台風通過後ほ場に滞水がある場合は、速やかに排水する。

【Ⅲ 野菜】

露地野菜

＜事前対策＞

- 1 ほふく性のつるを持つもの、葉根菜類では寒冷紗やべたがけ資材で覆い、上から重しをして動揺を防ぐ。

- 2 支柱、ネットを利用している立性のものは、支柱の補強や支柱への誘引を徹底する。ただし、強風が予想される場合は、支柱を倒し地面にはふくさせて保護する。
- 3 収穫直前のものは、早めに収穫する。
- 4 播種や間引き作業は延期する。
- 5 額縁明渠の手直し、排水口との連結の確認、排水溝の清掃など、排水対策を徹底する。

<事後対策>

- 1 台風通過後は直ちに復元し、傷んだ葉の除去、泥の洗い流しを行うとともに、殺菌剤による防除を行う（特に軟腐病等の細菌病対策）。
- 2 降雨がなく、潮害を伴う場合は直ちに散水を行う。
- 3 冠水したほ場では、停滞水による根腐れ等が発生しやすくなるので、排水路の溝上げを行い、すみやかに排水できるようにする。
- 4 流入土が沈積したほ場では、中耕・培土作業が可能になり次第早期に行う。
- 5 株が風により揺さぶられた場合は、土寄せを行う。
- 6 高潮により海水が侵入したほ場
 - （1）現作物が継続して栽培できる場合、多量の灌水で除塩する。
 - （2）改植が必要な場合は、土壌分析（ECの測定）し、0.5mS/cm以上では作物の耐塩性を考慮して、湛水・滞水・落水して除塩する。
- 7 播種直後や生育初期の段階で被害が大きいものは、作型を考慮して品種を選定し、種子の確保や播き直しを行う。

施設野菜

<事前対策>

- 1 通常対策
 - （1）施設の補強（ハウスバンドの締め直し、被覆資材の補修、側杭の打ち直し等）を行うとともに、補修資材を確保しておく。
 - （2）換気扇があれば台風の接近時に稼働させ、室内を減圧する。
 - （3）停電に備え、発電機等の機具の確保、準備をしておく。
 - （4）環境モニタリング装置等、ハウス外に移動できる機器は持ち出して、屋内等に避難させる。
 - （5）施設周辺の排水溝をさらい、排水対策を行う。
 - （6）施設周辺にある飛散しそうなものを撤去するとともに、燃料タンク等施設付近の装備が強風で飛ばないように固定しておく。
- 2 施設倒壊の危険性が生じた場合
 - （1）ハウス被覆資材を切り裂き、骨材の被害防止に努める。
 - （2）事前にハウスの上部に展張している遮光資材等の資材を除去しておく。また、強度が低いパイプハウスの被覆資材を除去し、施設被害の防止に努める。

<事後対策>

- 1 ビニールハウス等施設の倒壊・破損の状況を確認して、修復可能な被覆資材の破損は速やかに修復する。
- 2 アンカーの打ち直し、ハウスバンドの締め直しと補強、防風施設の修復を行う。
- 3 電気設備等がぬれた場合、感電に十分注意し、復旧に当たっては水気をふき取り、通風等により十分乾燥させた後、電源を入れる。
- 4 施設を閉切ることによって施設内湿度が上がり、病害が発生する可能性があるため、予防防除を行う。
- 5 高潮により海水が侵入したほ場や、冠水したほ場については、露地野菜に準じて対策を取る。
- 6 育苗施設等が浸水や冠水等の被害を受け、今後の生育不良等が予想される場合は、直ちに播き直しを行う。

【IV 花き】

露地花き

<事前対策>

- 1 収穫可能なものは、できる限り収穫する。
- 2 支柱やネットが必要な場合は、フラワーネット等の支柱を打ち増しするなど補強して倒伏防止に努める。
- 3 収穫が終了し、立茎が不要な場合は、フラワーネットを下段まで降ろし、支柱の倒伏を防ぐ。
- 3 排水路の確保、額縁明渠の手直し、排水路と排水口の連結など排水対策を図る。
- 4 防風ネットの点検と補強を行う。強風による倒壊の恐れがある場合、事前にネットを除去しておく。

<事後対策>

- 1 支柱を立て直すとともに、倒れたり傾いた株は、速やかに引き起こし、土寄せする。
- 2 冠水したほ場では、停滞水による根腐れ、生育不良が発生しやすくなるため、排水路の溝上げを行い、速やかに排水する。
- 3 傷んだ葉を取り除き、はね上がりで葉裏等に泥が付着している場合はよく洗い流し、病害の予防防除を行う。
- 4 降雨がなく、潮害を伴う場合は、人に危険性がなくなれば直ちに散水し、茎葉に付着した塩分を洗い流す。
- 5 風雨により株元が浮いたり、覆土が流れている場合は、土寄せを行う。
- 6 病害が発生しやすくなるため、薬剤散布等病害防除を行う。

施設花き

<事前対策>

- 1 収穫可能なものは、できる限り収穫する。
- 2 施設の補強(ハウスバンドの締め直し、被覆資材の補修、出入口の固定、サイド巻き上げの固定、側杭の打ち直し、天窓の固定等)を行うとともに、補修資材を確保しておく。
- 3 ガラス温室等施設周辺の飛散しそうなものは事前に撤去しておく。
- 4 進路や風の強さ等の台風情報に注意し、強風が予想される場合は、事前に施設の外側に展張する遮光資材や防風施設のネット等を除去しておく。
- 5 強度が低いパイプハウス等倒壊の恐れがある場合は、被覆資材を裂くなど被覆を除去し、施設骨材の被害防止に努める。
- 6 施設周辺の排水溝をさらい、排水対策と施設内への流入防止を図る。
- 7 風の入り込みを防ぐとともに、換気扇があれば利用し、室内を減圧する。
- 8 停電に備え、発電機の確保、準備をしておく。
- 9 燃料タンクなどの設備が強風で飛ばないように固定しておく。

<事後対策>

- 1 強風の恐れがなくなれば、直ちに通風・換気を図る。
- 2 雨水が施設内に流入し、停滞していれば、直ちにハウス外へ排水する。
- 3 施設の倒壊・破損の状況を確認して、修復可能な被覆資材の破損は速やかに修復する。
- 4 アンカーの打ち直し、ハウスバンドの締め直しと補強、防風施設の修復を行う。
- 5 電気設備等がぬれた場合、感電に十分注意し、復旧に当たっては水気をふき取り、通風等により十分乾燥させた後、電源を入れる。
- 6 施設を閉切ることによって施設内湿度が上がり、病害が発生する可能性があるため、予防防除を行う。
- 7 高潮により海水が侵入したほ場や、冠水したほ場については、露地花きに準じて対策する。

【V 果樹】

全般

<事前対策>

- 1 防風ネットの点検と補強を行う。防風施設倒壊のおそれが生じる場合、事前に防風施設のネットを除去しておく。
- 2 果樹棚は棚の引き下げアンカーの増強や周囲ひかえ線の点検、増し締めを行う。
- 3 シートマルチ栽培では、マルチ押さえや重し等の増強を行う。補強が困難であれば株元に巻き取り、飛散しないよう押さえをしておく。
- 4 潮風害に備え、用水の確保、動力噴霧機の準備、動力源の確保に努める。

- 5 幼木は倒伏しないよう、強度のある支柱を用いて補強する。また高接ぎ樹は新梢を固定しておく。
- 6 排水路の点検、整備を行う。
- 7 病害の事前予防散布（カンキツかいよう病等）を行う。
- 8 収穫中または収穫直前の生産物がある場合、最新の気象情報から台風の影響が発生する日時や程度などを勘案し、早期収穫を検討する。

カンキツ

<事後対策>

1 塩分の除去

降雨がなく、潮害を伴う場合は直ちに散水する。潮風を受け始めてから6時間以内に水洗すると効果が高く、水量は10aあたり2～3tを目安とする。

2 摘果

落葉した果樹は樹勢の回復を図るため、落葉の程度に応じて摘果する。

<うんしゅうみかんの摘果目安>

- ・落葉率60%以上で果実が残った樹：全摘果
- ・落葉率60～30%程度の樹：落葉の激しい枝は全摘果し、着葉している枝は20～50%の追加摘果する。
- ・落葉率30%以下の樹：20～30%の追加摘果する。

3 樹体管理

(1) 折れた枝はせん除し、切り口を平滑にして癒合剤等で保護する。また裂けた枝は結束・固定し、癒合剤等で保護する。落葉により樹体の日焼けの恐れがある場合は白塗剤を塗布し、土壌の乾燥が進む場合は適宜かん水等を行い根の保護に努める。

(2) 秋肥は落葉程度に応じて施用する。

①落葉程度別の秋肥施用量

- ・落葉率70%以上の樹：秋肥の施用は中止する。
- ・落葉率70～50%の樹：基準量の1／3を施用する。
- ・落葉率50～30%の樹：基準量の1／2を施用する。
- ・落葉率30%以下の樹：基準どおりに施用する。

②秋枝が発生した場合の施肥

新梢の緑化促進及び耐寒性の強化のため、全摘果樹では摘果後直ちに、結果樹では収穫直後に、2～3回尿素（500倍液）や複合液肥の葉面散布を行う。

(3) かいよう病等の発生が懸念される場合は、適切な防除を実施する。

落葉果樹

<事後対策>

1 塩分の除去

耐塩性はカキ、キウイフルーツが弱く、潮風害を受け5時間以上経過すると除塩効果がないことから、直ちに散水する（水量は2～3 t /10a が目安）。

2 樹体管理

- （1）折れた枝はせん除し、切り口を平滑にして癒合剤等で保護する。また裂けた枝で修復可能なものはボルトや誘引ひも等で固定し、癒合剤等で保護する。落葉により樹体の日焼けの恐れがある場合は白塗剤を塗布し、土壌の乾燥が進む場合は適宜かん水等を行い根の保護に努める。
- （2）間伐未実施園で損傷の激しい木は被害樹の間縮伐を考える。その際、損傷部はせん除し、落葉期を待ってせん定する。
- （3）台風通過後は、病害等の発生が予想される場合は直ちに防除を行う。
- （4）落葉によって根の傷みや秋根の発根が少なく、貯蔵養分も少なくなると予想される場合は、被害程度に応じて施肥する（以下、ナシの例）。また、耐寒性が低下するため剪定時期を遅らせる。

①落葉率 70%以上の場合

- ・根痛みがひどく発根が少ないと思われるため、礼肥は中止する。
- ・元肥量は通常の 80%として2回に分施し、残り 20%分は初期成育を促す目的で2月の追肥で施用する。
- ・貯蔵養分の消耗を少なくするため、断根をとまなう中耕や深耕は実施せず、施肥は表層施用にとどめる。

②落葉率 60%以下の場合

- ・礼肥、元肥は通常の量、時期に施用する。通常の土壌管理で良いが根痛みを防ぐため極端な断根は避ける。

【VI 畜産】

施設全般・家畜

<事前対策>

- 1 降雨に備え、畜舎周囲に排水溝を掘ったり土嚢を積むなどして、施設内への雨水の侵入を防ぐ。
- 2 糞尿貯留施設の点検を行い、降雨により糞尿が流出しないよう補修する。
- 3 畜舎及び堆肥舎等の点検を行い、強風であおられた場合に破損や飛散する可能性がある危険な箇所や物については、適切に補修、収納などの対策を行う。
- 4 浸水の可能性がある場所の資機材は、予め移動させる。

- 5 停電・断水に備え、必要電力に見合った発電機の確保や試運転、給水タンクの手配などを行う。
- 6 畜舎外で飼養している牛は、必要に応じて事前に畜舎内に移動させる。

＜事後対策＞

- 1 畜舎が浸水した場合、速やかに排水対策を実施するとともに、通風換気などにより畜舎内の乾燥を促す。また、畜舎内の雨水が引き次第、汚染部分の水洗と消毒剤や石灰散布、石灰塗布により、疾病の発生予防を行う。
- 2 堆肥舎や尿溜に入った雨水が流出する恐れがある場合は、土盛りなど行い周辺への流出を防ぐ。
- 3 停電・断水が発生した場合は、発電機などの電源を確保するとともに、発電能力に合わせて機器の優先順位付けを行う。また、給水タンクを供給施設へ持ち込んだり、給水車からの供給を受けるなど必要な水を確保する。
- 4 家畜の体調を確認して、異常が見られた場合は速やかに獣医師の診察を受ける。
- 5 乳用牛においては、停電で搾乳ができない場合、給水を制限すると同時に栄養価の高い飼料給与を控え、通電後、直ちに搾乳を行う。なお、前搾りを行い乳房炎を疑う場合にあっては、獣医師の診察を受ける。

飼料作物・飼料

＜事前対策＞

- 1 ほ場の冠水しやすいところでは、溝切りを行い排水対策に努める。また、ほ場でロールベールを保管している場合は、冠水の恐れのないところに移動させる。
- 2 収穫間近の飼料作物は早めに収穫調製する。
- 3 飼料に雨水がかからないようシート等で覆う。
- 4 物流への影響が予想されるため、飼料は余裕をもって準備する。

＜事後対策＞

- 1 雨水の浸み込んだ乾草やサイレージ及び冠水したスタックサイロやバンカーサイロ等の飼料については品質を確認し、適当でない場合は家畜へ給与せず、代替飼料の確保に努める。
- 2 ほ場が冠水した場合は、排水溝を掘るなどして排水を促す。また、排水施設に詰まりがないか点検する。
- 3 収穫適期頃の飼料作物は、天気の回復状況を確認して収穫する。